



Yi

リーオ

鬼怒川&小貝川イベントガイド

特集

鬼怒川流域の 造り酒屋を訪ねて

22

2007 AUTUMN



◀創業文化2(1805)年の山中酒造店。6~7年前から越後杜氏に鍛えられた若い地元の杜氏を育成している

▼水晶のようにみがかれた酒米を洗う。水の温度、水分の含み具合など細心の注意が払われる

鬼怒川流域の 造り酒屋を訪ねて

鬼怒川流域には、古くから続く日本酒の蔵元が数多くあります。

なかでも、(株)山中酒造店は鬼怒川の清流を直接汲み、

お酒の醸造を行っている唯一の蔵元です。

同店の当主・山中さんに鬼怒川の水と酒造りの

お話をうかがいました。

(株)山中酒造店
8代目当主
山中 直次郎さん



辛くない辛口という酒造りが、一番難しいのです。おかげさまで、私どものお酒は、味がきれいで滑らかな良い酒だという評判をいただいております。

お酒は普通、初添い、仲添い、留添いと三段仕込みで、醗酵を調整しながら搾りに入ります。しかし、軟水の場合は醗酵しにくいので、うっかりすると醗酵が遅れる可能性があります。そこで初添いで徹底的に醗酵を進めて、仲添いを省略し、留添いで調整する。この二段仕込みの醸造法によって、軟水の使用を可能としたのです。醸造法が完成したのは、昭和初期に入ってからですが、このお酒によって全国新酒鑑評会で第1位を受賞いたしました。

鬼怒川の自然の恵みを 酒造りで伝え続ける

創業は200年ほど前、文化2(1805)年になります。それ以前は味噌とか醤油をやっていたらしいです。あるとき蔵に火災が発生しまして、当時の当主・山中と右衛門が菩提寺の西福寺に火伏不動さんを納めたという話があり、それ以来、酒造りを始めたそうです。

3代目くらいまでは井戸水を汲んでいたようですが、鉄分が多くて酒造りに適さないのです。いま、私どもにある伏流水の井戸は、85mほどの深さがあります。このぐらい深いと何とか使える水が出ますが、江戸時代の井戸掘り技術では、こんなに深く掘りませんから、いい水が得られなかったと思います。

昔から川の水は三尺流れると清しと言います。当時の鬼怒川も非常に澄んだ清流で、お茶をやる方が、川の中程まで舟を漕ぎ出して、水を汲んでいたそうです。そこで、お茶をたてるぐらいきれいな水ならどうか、と鬼怒川の水を直接汲んで酒造りを始めたようです。

お酒は生き物です。大事な時には、夜中でも休日でも酒のそばについていなければいけません。それができるのは、酒造りへの強い愛情と情熱があるからです。そして自然の恵みの偉大さに深い敬意を持つことも大切です。私どもにとって、まさに鬼怒川があってこそその恩恵で、その自然の恵みに深く感謝しています。



生産石高は一定していないが、年間2000石(1升瓶にして20万本)。「真水の如き酒」造りを目指している

(株)山中酒造店
常総市新石下187 電話0297-42-2004

代表銘柄「一人娘」。鬼怒川の表流水を使用し、独特の二段仕込みで有名。つくば学園都市に来る外国の研究者にも評判が良く「これはセントルマンの白ワインだ」とお誉めの言葉をいただいた。インターナショナル・ワイン&スピリットコンベンション(IWSC)「ワインの部」で金メダル受賞(平成9年)、モンドセレクション・ハイクオリティ賞を受賞(平成9年)



鬼怒川のほとりにある山中酒造店。鬼怒川の表流水を使った酒造りをする蔵元である

鬼怒川水系の蔵元アラカルト

鬼怒川流域には、数多くの日本酒の蔵元がありますが、その一部を紹介します。

◆栃木県

●(株)井上清吉商店
宇都宮市白沢町1901-1 電話028-673-2350
代表銘柄「澤姫」。南部杜氏免許を最年少(29歳)で取得した若き杜氏と20代の蔵人が地元密着の酒造り。

●仙禽酒造(株)
さくら市馬場106 電話028-682-3411
代表銘柄「仙禽」。創業200年を期し、酒造りの原点に回帰。半世紀ぶりに木桶仕込みを復活。

●宇都宮酒造(株)
宇都宮市柳田町248 電話028-661-0880
代表銘柄「四季桜」。明治4年創業。国税庁主催の全国新酒鑑評会で6年連続金賞受賞。

●惣蒼酒造(株)
栃木県芳賀郡市貝町大字上根539
電話0285-68-1141
代表銘柄「惣蒼」。酒造りを始めて約120年。蔵にふたつの井戸があり、水質は軟水。「辛口にして辛からず」の酒質もこの水質による。

●(株)辻善兵衛商店
真岡市田町1041-1 電話0285-82-2059
代表銘柄「桜川」。創業室暦4(1754)年以来、地元の米・水、技での酒造りを目指し、技術者を育成。

●(株)外池酒造店
栃木県芳賀郡益子町埜333-1 電話0285-72-0001
代表銘柄「燦爛」。「酒造りの原点は米作り」をコンセプトに「酒米作り体験」なども開催している。

◆茨城県

●(株)武勇
結城市結城144 電話0296-33-3343
代表銘柄「武勇」。敷地内の約150mの井戸より水を汲み上げ、精密濾過装置を通して一年中安全な水質を確保。

●野村醸造(株)
常総市石下町本石下2052 電話0297-42-2056
代表銘柄「袖美人」。明治30年創業。スタッフ10名の少数精鋭主義、製造石数は数千石弱の生粋の地元系蔵元。

●(株)竹村酒造店
常総市水海道宝町3375-1 電話0297-23-1155
代表銘柄「京の夢」。ピュアウォーターで米の味を引き出す製法を大切にしている。



6月9日に実施した自然観察会。オオバンの池で植物とトンボなどを観察しました

We Love River

鬼怒川の水辺を観察しよう

真岡自然観察会

会を発足するきっかけは、「オオバンの池」の保護であったと会長の杉田さんは語る。

「かつて水田であったところが砂利採取場となり、その跡地に水が溜まって池になりましてね。その池に、いつのまにか栃木県ではあまり観察されないワイナ科の鳥・オオバンが棲みつくようになりました。このオオバンの棲む池を守ろうというのが、会の最初の主旨でした」

保護を言い出したのは、杉田さん、山岸武さん、高松健比古さんの3人。年齢も職業も違う3名が、出会ったのは『真岡市の動植物』の編纂のためでした。皆さん自然が大好きで、以前から自然観察などの指導



真岡自然観察会
杉田 勇治 会長

■ Profile

佐野市生まれ、75歳。栃木県庁を定年退職後、根本山観察センターに請われて勤務、『真岡市の動植物』の編纂をきっかけに真岡自然観察会を発足。観察会では、主に植物観察を指導する。

に携わっていたそうです。

杉田さんたちの主旨に賛成する人が次第に増え、やがて活動は市や国をも動かします。平成6年にオオバンの池の土地買収・整地が始められ、「オオバンの池」(7ha)、「トンボの池」(3ha)、鬼怒水辺観察センターからなる鬼怒水辺観察緑地(「鬼怒川・真岡地区河川防災ステーション」も兼ねる)が開設。この水辺観察センターを中心に、杉田さんたちは指導員として自然観察やトンボの池の管理にあたっています。

現在、同会の会員は84名。当初は真岡市内の人が中心でしたが、次第に自然保護の考えが浸透していき、いまでは県内はもちろん県外からも参加するほどになっています。「自然保護というと、すぐに採取禁止を言い、捕らなければ保護できると考えています。しかし、それがそもそも間違いなんです。大切なことは、生物・植物を深く観察し、そのデータをもとにトンボならトンボ、オオバンならオオバンが息しやすい環境を整えてやることです」

同会では、観察会を積極的に開催。その観察会でも昆虫の採集を、オオキトンボやマダラヤンマなど希少野生生物以外は認めている。環境さえ整えてやれば、そこで繁殖できるから、捕っても減らないというのが、杉田さんたちの考えです。

「生態系は、非常に微妙なバランスの上に成り立っています。例えば食物連鎖の1カ所でも切れれば、生物は絶滅の一途をたどります。生物を採集しないで守ってやるより、その食物連鎖を断ち切らないことです。もちろん、そのためには外来種を入れない、天敵の排除など、そこに棲む生物に最適な環境を整えることが大切です」

活動のひとつである「トンボの池」の管理だが、7年前の観察では28種類しか見られなかったトンボが、毎年5〜6種類も増加。現在では52種類まで増えたそうです。いかに同会がトンボの生態系に合った管理をしているかがわかります。

「今後の課題は、後継者をいかに育てるかですね。幸いなことに大学生など、興味をもって参加する若い人が増えているので、今後の成長が大きな楽しみとなっています」

■ 鬼怒水辺観察緑地・トンボの池で見られる秋の動植物

鳥類	 ●オオバン ワイナ科の鳥で、水田や湖沼に生息。水辺の昆虫、水草の種子などを採食	 ●ダイサギ サギ科の鳥で脚が長く、川や湖、湿地などでサカナを捕る。夏鳥と冬鳥がいます	 ●ノスリ トビに似ているが、タカ科の留鳥。上空で円を描くように飛びながら野ネズミや小鳥をさがして捕まえます	 ●コガモ カモ科の冬鳥。池、河川など淡水域に見られ、水辺の種子、穀物、水草の根や芽を食べます	
	トンボ類	 ●マダラヤンマ 水生植物の多い池や沼に生息。鮮やかな瑠璃色と黒のマダラ模様美しいトンボです	 ●オオキトンボ 広い草原を飛び回る大型のアカトンボ。水質汚染に弱いといわれ、各地で激減している絶滅危惧種です	 ●チョウトンボ 青紫色の羽をチョウの様にふわふわと優雅に飛ばすため、この名があります。羽は光線の加減で虹色に輝きます	
		植物類	 ●オギ ススキによく似た、河原などに生える多年草。地下茎で繁殖し、花穂も大型でぶっくらしており、小穂には芒(ホサキ)がありません	 ●タコノアシ 花の形が鎖の足の吸盤のように並んでいるので、この名前がつけられました。絶滅危惧種にランクされています	 ●コガモ ガマの穂のひとつ。秋になると、穂がはじけて種子を放出し、ふわふわと空中をたがよみます

写真提供: 真岡自然観察会 (杉田・山岸・高松)



川のあるまち歩き

二宮町

二宮尊徳の足跡を見る

栃木県の南東部に位置する二宮町は、日本一のイチゴ生産量を誇ります。町名の由来となっているのは、二宮金次郎こと尊徳です。薪を背負って本を読む姿の銅像で有名ですが、その二宮尊徳と同町の関わりや、ゆかりの場所をその他の観光スポットとともに紹介しましょう。

■二宮尊徳と二宮町

江戸時代の天明7(1787)年、二宮金次郎(尊徳)は神奈川小田原市に生まれました。若くして両親を亡くし、伯父の家で懸命に働きながら、寸暇を惜しんで勉学に励み、一家を再興します。その後、小田原藩家老・服部家の建て直しにも尽力し、その功が認められて下野国桜町領(現・栃木県二宮町物井、横田、真岡市東沼)に赴任します。

荒れ果てた桜町を立て直すために、尊徳は農民に勤勉を説くとともに、私財をなげうって農機具などを買い与え、自ら先頭に立って道路や用水路、堰の改修を行います。その結果、桜町は豊かな村に生まれ変わりました。働き盛りの36歳から26年間を、尊徳は桜町で過ごし、「報徳仕法」の教えとともに、その名は全国に広がりました。現在、二宮町には尊徳ゆかりの史跡が数多く保存されているほか、「二宮神社」「二宮尊徳資料館」もあります。



桜町陣屋跡 (国指定史跡)

最初に尊徳が生活した屋敷を「桜町陣屋跡」として保存。桜町陣屋は、当時の代官役所で、明治4年まで使用されました。二宮町には、このほか尊徳が足を洗ったという「足洗い池」や遺髪を奉じた「二宮金次郎墓域」なども残されています。

二宮尊徳資料館展示室



二宮尊徳直筆の書状や陣笠・脚絆や脇差、小田原藩主より拝領した煙草盆と茶器など多数の展示品と資料があり、偉大な業績を残した尊徳の足跡を後世に伝えています

桜町二宮神社



もともと稲荷・八幡の二社でしたが、明治38年の尊徳50年祭のときに二宮神社として創建。現在の拝殿は、昭和10年の80年祭のときに建立されました。毎年11月17日には、尊徳の霊を祀る祭典を行っています

五行川の大前堰 (真岡市)



二宮町の隣、真岡市東郷にある大前堰。五行川の水を穴川用水に引き入れるための堰です。二宮尊徳は、赴任当初から何度となく堰の修繕・改良を行い、「二宮堰」とも呼ばれています。大前神社の東側にある堰で、サケの遡上・産卵が確認されたことも知られています

〈その他の観光スポット〉

高田山専修寺 (国指定文化財)



山門から如来堂を望む。嘉禄元(1225)年に、親鸞が夢で明星天子のお告げを受け、建立したと伝えられています。如来堂の奥には、本尊の一光三尊佛が秘仏として安置されています

三谷草庵



親鸞が常陸国・稲田(現・茨城県笠間市稲田)の西念寺に落ち着き、布教のためにこの地を訪れたときに、真岡城主から提供された草庵です

長沼八幡宮



坂上田村麻呂により建立。神楽殿では、江戸時代より継承されている繁栄祈願の太々神楽(だいだいかぐら)が毎年、氏子によって奉納されます



写真提供:二宮町・大前神社

EVENT GUIDE



10月 October



1 第18回 鬼怒グリーンパーク
コスモス祭り

6 (土) 高根沢町 鬼怒川左岸鬼怒川橋上流
鬼怒川河川敷グリーンパーク
鬼怒グリーンパーク公園管理事務所
☎ 028-675-1909



2 五行川鮭
母川回帰歓迎会

13 (土) 真岡市東郷五行川
大前神社南五行川西岸河川敷広場
NPO法人 鮭守の会 事務理事 柳田
☎ 0285-84-2200 (大前神社内)



3 鬼怒川の自然探勝会
in 2007

13 (土) 栃木県宇都宮市上桑島町2450-3
鬼怒ふれあいビーチ バーベキュー広場
NPO法人 栃木県環境カウンセラー協会事務局
☎ 028-627-1216

4 うしくゴツ多市

14 (日) 牛久市栄町運動広場
(牛久市栄町4丁目 中央生涯学習センター隣)
牛久市商工観光課 (ゴツ多市組合事務局)
☎ 029-873-2111 (代)

5 ポピー種蒔きと収穫祭

21 (日) 下妻市 鬼怒川左岸大形橋付近
下妻市都市整備課
☎ 0296-43-2111



6 第32回
ハーブフローの集い

21 (日) 取手市 小貝川右岸藤代大橋下流
ハーブフローの会 会長 結城



7 建設フェスタ2007

28 (日) つくばみらい市
みらい平駅 TXみらい平駅前特設会場
茨城県土木部検査指導課
☎ 029-301-4370

11月 November



8 鬼怒川直轄改修着手
80周年記念フォーラム

1 (木) 結城市 結城アクロス 大ホール
下館河川事務所 調査課
☎ 0298-25-2171

9 うしくwaiワイ祭り

3 (土) 牛久市 中央生涯学習センター駐車場
牛久市商工観光課
(うしくwaiワイ祭り実行委員会)
☎ 029-873-2111 (代)

10 鬼怒川水辺観察緑地の
鳥、昆虫、植物観察

24 (土) 真岡市若旅1188
真岡市鬼怒水辺観察緑地
観察センター内 真岡自然観察会
☎ 0285-84-6439

12月 December

4 うしくゴツ多市

牛久市栄町運動広場
(牛久市栄町4丁目 中央生涯学習センター隣)
牛久市商工観光課 (ゴツ多市組合事務局)
☎ 029-873-2111 (代)



開催場所 問い合わせ先

鬼怒川改修 80周年 記念フォーラム

鬼怒川の歴史を見つめ、 未来につなぐ

11月1日(木) 13:00~
(開場 12:30)

会場 結城市民文化センターアクロス

写真提供：さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館



■特別講演 (13:05~)

「たかが水、されど水」

女優・声優 大山のぶ代

■パネルディスカッション (14:15~)

～鬼怒川の歴史を見つめ、未来につなぐ～

コーディネーター

西村 仁嗣氏 筑波大学 名誉教授

パネリスト

大山のぶ代氏 特別ゲスト
小西 栄造氏 茨城県結城市長
秋元 喜平氏 栃木県さくら市長
中野 英男氏 さくら市ミュージアム館長(栃木県)
飯島 順一氏 花と万人の会会長(茨城県下妻市)
成田 一郎氏 下館河川事務所長

参加申し込み
方法

参加希望の方は、郵便番号、住所(参加証送付先)、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、参加人数をご記入の上、ハガキ、FAX、またはメールを利用してお申し込みください。 ●締め切り / 10月24日(水) : 当日消印有効
※参加者には折り返し、「参加証」をお送りいたします。当日は受付にて「参加証」をご提示の上、ご入場いただけます。
※お申し込み時のお客様個人情報(氏名・住所・連絡先等)は参加証の発送などイベントの円滑な運営のためのみに利用します。

お申し込み
問い合わせ先

鬼怒川改修 80周年記念イベント運営事務局
〒150-8343 東京都渋谷区渋谷 2-12-19 東建インターナショナルビル 11F 株式会社ブラップ ジャパン内
TEL.03-3407-6031 FAX.03-3486-6871 URL <http://www.kinukokai.jp/>

■主催：鬼怒川・小貝川サミット会議・国土交通省関東地方整備局下館河川事務所 ■賛助：関東建設弘済会

平成19年度 第20回 関東連合水質事故対策訓練



みんなで守ろう、きれいな川、私達の暮らし

開催日時 平成19年 10月17日(水) 10:00▶12:00

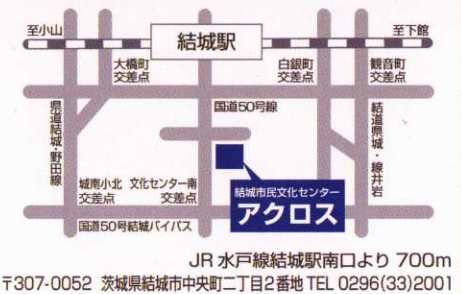
実施場所 宇都宮市道場宿町地先 道場宿緑地(柳田大橋下流)

本訓練は一般の方々もご自由に見学いただけます。
会場では訓練映像に解説を交えて解りやすくご説明いたしますので、この機会に是非ご来場下さい。

お問い合わせ先 国土交通省下館河川事務所 管理課 ☎ 0296-25-2169

- 主催 関東地方水質汚濁対策連絡協議会(関水対協)
構成機関:国土交通省関東地方整備局・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・川崎市・横浜市・千葉県・さいたま市
独立行政法人水資源機構
- 協力 宇都宮市・東日本高速道路株式会社・NPO油濁防除研究会
- 後援 下野新聞社・茨城新聞社・常陽新聞社・NHK宇都宮放送局・とちぎテレビ・宇都宮ケーブルテレビ株式会社・エフエム栃木・栃木放送・茨城放送

アクセス



水のちからを、未来のちからに。カスリーン台風から100年 カスリーン調査隊「くるる隊」登場 利根川サミット & 土木の日 開催

利根川流域の都県知事が一堂に会し、カスリーン台風を教訓とした治水、防災のあり方についてディスカッションします。大妻女子大・藤吉洋一郎氏の講演もあります。

期日:平成19年11月23日(祝)
会場:笹川記念会館 国際ホール
03-3454-5062

期日:平成19年11月18日(日)
会場:鹿骨区民館(江戸川区)
03-3678-6111

先着 750名
お問い合わせ 「利根川サミット」事務局 03-5733-5169

先着順
お問い合わせ 「土木の日」事務局 03-5733-5184



「とっておきの写真」より セレクトアップ!

今回も「とっておきの写真」にたくさんの応募をありがとうございました。誌面の都合で、その一部しか紹介できないのが残念です。



▲鬼怒川の道場宿付近で撮影

「川遊び」

投稿者:青木昌子さん(宇都宮市)
優河くん(7歳)、聖河くん(5歳)

道場宿河川に遊びに行き、子どもたちが川に入って、川エビをさがしているところです。ようやく川エビを見つけたときの子どもの笑顔は、ニコニコでした。



▲鬼怒川の氏家大橋付近で撮影

「鮎の友釣り」

投稿者:齋藤新一さん(宇都宮市)

友釣りの姿は、夏の風物詩。鬼怒川は、これに限ると言ってもいいほどです。鮎よりも、鮎を釣る人のほうが多いと思えるほど多くの釣り人が出ていました。釣り人の熱気に圧倒され、思わずシャッターを押してしまいました。

皆さんからのお便りにつくるコーナー

リ・ア・クト rio読者の皆さんに川遊びなど、川での思い出に残る出来事を寄せていただきました。

- 「鬼怒川の夏、ホタルの夕べ」の記事を楽しく拝見。上三川町の磯川緑地公園の記事は、子どもの頃を思い出しました。
U・Tさん(主婦・62歳) 守谷市
- いまから20年ほど前(当時、私は4、5歳)、まだ小貝川はきれいで、ホタルが家まで入ってきました。また、おたまじゃくしをみんなで川に見に行ったことも懐かしい思い出です。
K・Yさん(フリーター・25歳) 常総市

- 子どもの頃、小貝川の支流・大川には丸太が3本かけただけの橋がありました。そこを渡るときのスリルや魚釣りが、とても楽しい思い出に。夜には、ホタルがいっぱい飛んでいました。
Y・Kさん(農業・51歳) 芳賀市
- プールなどがなかった時代だったので、川で泳ぎました。水がきれいで、水草の青々とした光景が、いまでも頭にくっきりと浮かびます。
T・Sさん(無職・63歳) 小山市



皆さんの声をお聞かせ下さい!

リーオでは皆さんのお便りをお待ちしています。川のこと、自然のこと、河川事業に関する事など、とじ込みハガキに書いてお寄せ下さい。



とっておきの写真を募集中です。

リーオでは皆さんの撮った「とっておきの写真」を募集しています。鬼怒川や小貝川流域の風景やお祭りなどのほか、過去の災害写真など、たくさんお寄せ下さい。写真をお寄せいただいた方には粗品を差し上げます。

編集後記

今月の特集は、いかがでしたか。鬼怒川の水を直接使ってお酒が造られているなんてビックリ! 酒造元の山中酒造店は、鬼怒川のほとりにあって、風光明媚な環境。自然の豊かな恵みから、美味しいお酒も生まれることを実感しました。



第22号 Autumn

※rio [リーオ]とはスペイン語で「川」という意味です。

表誌写真:鬼怒川の上流「龍王峡の紅葉」(写真提供:鬼怒川・川治温泉観光協会)

編集
発行

「鬼怒川・小貝川サミット会議」事務局・国土交通省 下館河川事務所

〒308-0841 茨城県筑西市二木成1753 ☎0296-25-2171 (調査課)

★「リーオ」はインターネットホームページでもご覧いただけます。

下館河川事務所HP ▶ <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/> E-mail ▶ shimodate@ktr.mlit.go.jp

●このパンフレットは再生紙を使用しています。